

項 番	大項目	小項目	要件
1	基本要件	全体構成	クラウド型のサービスであること。
2		環境要件	iPhone、iPad、Android、Windows、Mac など、マルチデバイスでの動作保証・動作確認が担保されていること。
3		セキュリティ要件	プライバシーマークや ISMS など、第三者認証の安全評価基準を満たしていること。
4			メインサーバー環境とは別に、障害時の予備サーバー環境が無償にて提供されること。また、障害が発生しても、予備サーバー環境はその影響を受けないこと。
5			データセンターは国内に拠点があること。
6	機能要件	管理者機能	ユーザごと及びグループごとに印刷・ダウンロードの可否等を設定できること。
7			ユーザーごと及びグループごとに閲覧フォルダ・文書を制限することができること
8			クライアントユーザーが同時にクライアントサーバーに接続・文書ファイルを閲覧しても支障なく会議が同時に行えること。また、クラウドサーバーに保存できるデータ容量は、システム全体で最低でも 1GB 以上を有すること。
9			接続先認証、端末認証等を有し、審査会の運営方法に応じて設定ができること。
10			ユーザーごとに ID、パスワードを設定し変更できること。
11			ユーザーを会議体などのグループで登録できること。
12			同一ユーザーを複数のグループに登録できること。
13		会議運営者機能	事前審査の入力結果を自動で集計できること。
14			会議体メンバーのうち 1 名でも事前審査の入力内容に相違がある場合、該当審査対象者が明示されること。
15			2 次判定結果は要介護状態区分および有効期間を選択でき、必要に応じてコメント入力も行うことができること。
16			PDF 形式の文書ファイルが登録できること。
17			パソコンからドラッグアンドドロップ等の簡易な操作で文書・ファイルが登録、削除ができること。
18			文書ファイル及びフォルダは、簡単に整理、分類ができること。また、登録後もフォルダの構成を変更することができること。
19			文書ファイルとフォルダの閲覧機能について、ユーザー及び指定するグループごとに個別に設定できること。また、途中でその変更も可能であること。
20			2 次判定結果の入力は、審査委員または事務局職員など、参加メンバーから 1 名を入力できるよう設定できること。
21			審査会の参加メンバーや会議フォルダなどを、一括で複製（コピー）ができること。
22			登録後に文書ファイルの差替えができること。
23			文書ファイル及びフォルダの閲覧期間制限が可能であること。
24			介護認定審査会の日時設定が可能であり、カレンダーやリスト一覧表示が出来ること。
25			各認定審査会で指定したオンライン会議 URL を設定可能であること。また起動すれば会議システムと同時利用が可能であること。
26			該当会議体の非対象ユーザーおよびグループは会議日程を表示できないように制限することができること。
27			介護認定申請区分を会議運営者が設定でき、選択肢のカスタマイズも可能であること
28			2 次判定結果はファイル出力（csv ダウンロードなど）が出来ること。
29			審査対象者及び各種資料（1 次判定結果、主治医意見書など）は個別登録、自動的に対象者情報を認識してシステムに取り込む機能を有する事
30			審査対象者の申請区分情報をシステムに取り込む際、認識すべき文字を指定して検索することができること
31			各対象者の特定情報（被保険者番号、年齢、性別）を資料情報として取込・表示させるか選択可能であること。
32		会議参加者機能	画面を分割して、他のアプリと組み合わせて同時に表示ができること。
33			機能を組み合わせて同時利用ができること。（会議機能、メモ機能の同時利用など）
34			審査対象者の 1 次判定結果、各種資料（1 次判定結果、主治医意見書など）を対象会議体フォルダで閲覧できること。
35			メモ機能で保存した場合、ユーザーごとに管理をし、同一ユーザーであれば異なる端末からでも閲覧可能であること。
36			認定審査委員の事前審査内容の登録は、「事前審査の締め切り」まで何度でも変更することができること。

37		認定審査委員は各種資料を閲覧（メモ等を含む）し、簡便に事前審査内容を登録できること。
38		1,000 ページ、100MB 程度の文書ファイルでも、事前のダウンロード操作等の作業不要で、モバイル通信端末において操作開始からおおむね 3 秒以内に表示ができること。
39		ページ数の多い文書ファイルを開いた場合、ファイル全体のダウンロード完了を待たずに、閲覧しようとしている任意のページを高速表示できること。
40		拡大縮小表示が自在なものであること。
41		拡大したまま、ページの移動ができること。
42		文書ファイルに、電子ペン等による手書きやキーボード入力によるメモの書き込み、画像及びテキストの貼り付けができ、ユーザーごとに保存できること。
43		メモ機能はユーザーだけで記入・保存する「個人メモ」とアクセス権限があるユーザーが記入・表示される「共有メモ」を選択できること。
44		メモを保存しても、システム全体のファイル保存できる容量が減らないこと。
45		文書の差替えがあっても、各種メモの情報を引き継ぐことができること。
46		任意の文書ファイル及び任意のページに素早く移動できること。
47		サムネイルによるページの一覧表示ができること。また、サムネイルを利用してページ移動ができること。
48		個別の文書ファイルを対象に文書内検索ができること。また、複数の文書を対象に横断検索ができること。
49		しおり（ブックマーク）機能を有すること。また、複数の文書にまたがったしおり（ブックマーク）を管理できること。
50		しおりセットに各ページのしお리를束ねて作成でき、任意の名称を登録できること。
51		束ねたしおり等を 1 つの画面で確認できること。
52		最近閲覧した文書ファイルの履歴を表示する機能があること。また、閲覧履歴を利用して文書ファイルを開くことができ、その際、該当文書の最後に表示したページが表示されること。
53		メモ機能で保存した場合、ユーザーごとに管理をし、同一ユーザーであれば異なる端末からでも閲覧可能であること。
54		右縦じ、左縦じの各方向を切替できること。
55		「ページ通知機能」を使って、会議参加者に該当ページを表示させることができこと。
56		通知履歴を利用してページ移動でき、通知履歴を会議記録として保存ができること。
57		PDF に設定された「もくじ」を表示でき、ページ移動ができること。
58		アプリ上、ブラウザ上問わず画面を分割して、2 つの文書の見比べができること。 また、同一対象者資料や異なる対象者資料のどちらでも見比べ可能であること